

平成 5 年度

米沢市立上杉博物館年報

Vol. 6

刊行にあたって

平成5年度は、かねてより重要文化財「上杉本 紙本金地著色洛中洛外図」の複製品制作事業に取り組んできたところ、12月をもって完了し、当市に引き渡されたところであります。本屏風は、平成元年に上杉家より寄贈を受けたもので、極めて貴重な資料であることから、原本を良好な状態で保存することと、複製品による公開の拡大を図ることなどにより実施したところであります。

本事業に御協力いただきました関係各位に対し、心から厚くお礼申し上げます。

さて、5年度は、上杉家文書の世界―謙信登場―を始め6件の特別展を開催いたしました。本展は、重要文化財上杉家文書をひもとき、戦国の武将として名を馳せた上杉謙信の生涯とともに彼と交わった人々を古文書から辿ってみました。

当館は、管理運営をお願いしております(財)上杉文化振興財団の御協力によりまして事業が円滑に促進するなかで、多くの方々に御観覧いただいております。

また、米沢市歴史民俗博物館構想専門委員会を設置し、地域の特性を活かした新たな博物館の建設に向けて準備を進めております。今後とも、市内外の人々に親しまれる博物館として努力する所存でありますので、なお一層の御協力、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成7年3月

米 沢 市 教 育 委 員 会

教育長 相 田 實

目 次

○館の概要	1
・ 目的と沿革	
・ 施設	
・ 博物館日誌	2
○平成5年度事業	3
・ 展 示	
米沢市立上杉博物館開館 25 周年記念特別展	
(1) 上杉家文書の世界	3
－謙信登場－	
(2) 生活文化史 煙草盆	5
－梅津宮雄コレクション－	
(3) 第4回昆虫展 川に生きる	7
－水辺の昆虫たち－	
(4) 米沢藩の絵師たち	9
米沢市立上杉博物館開館 25 周年記念特別展	
(5) 第23回日本刀展	11
－桃山時代の名刀 并 拵－	
(6) 上杉鷹山公とその周辺	13
(7) 新収蔵品展	15
・ 収 集 平成5年度受入資料	16
収蔵資料件数	20
・ 博物館実習	21
○平成5年度 入館利用状況	23
○組織・名簿	24
・ 米沢市立上杉博物館協議会	
・ 財団法人米沢上杉文化振興財団	
・ 米沢市立上杉博物館	25

館の概要

目的と沿革

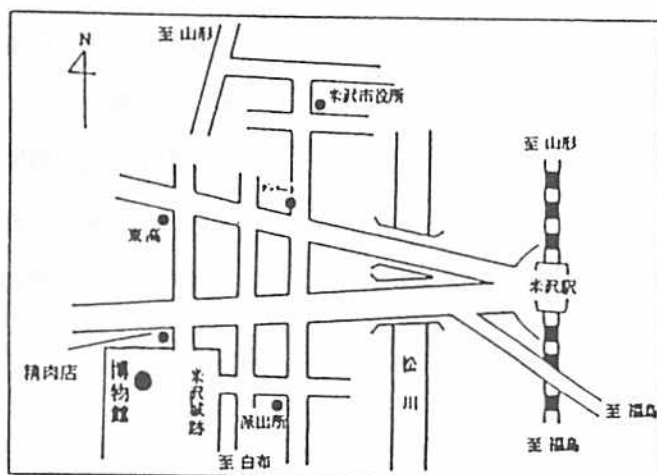
米沢市立上杉博物館は、その前身として米沢郷土館・市立米沢郷土博物館・市立米沢博物館があった。これらは南置賜郡役所や市立図書館に併設されていたが、昭和42年、市民の教養の向上と学芸および文化の発展を図るため、博物館施設として現在の位置に独立した館が建てられ名も米沢市立上杉博物館となって、そのあゆみを始めた。

当館では、価値ある資料を収集・保管し調査研究に基づく展示を行って教育的配慮の下に一般の利用に供すること、人々の教養・調査研究・レクリエーション等に資するために必要な事業を行うこと、資料に関する調査研究を行うことを目的としている。

- 昭和5年10月 元南置賜郡役所に米沢郷土館設置。
- 昭和13年4月 市政50周年記念として米沢市に移管され市立図書館に併設。
- 昭和27年9月 博物館相当施設として登録、市立米沢郷土博物館と称す。
- 昭和30年9月 市立米沢図書館に移転（旧市立米沢図書館）。
- 昭和37年7月 博物館法による設置条例制定、市立米沢博物館と改称。
- 昭和41年11月 丸の内一丁目4番13号に、市立米沢博物館新館完成。
- 昭和42年4月 博物館法による設置条例制定、米沢市立上杉博物館と改称。
- 昭和42年6月 博物館施設として登録。
- 昭和43年5月 社団法人上杉博物館協会設立。
- 平成2年3月 財団法人米沢上杉文化振興財団設立。

施設

総	面	積	473.42㎡
陳	列	室	129.60㎡
展示室（兼）	ホール		117.82㎡
収	蔵	庫	51.84㎡
研	究	室	32.40㎡
事	務	室	21.50㎡
映	写	室	4.86㎡
そ	の	他	115.40㎡



平成5年度 博物館日誌

- H5. 4. 1 財米沢上杉文化振興財団と米沢市で米沢市立上杉博物館の管理運営平成5年度委託契約締結。
4. 4 会津若松上杉氏寄託品「屏風、絵画（軸物2点）」返却
4. 7 「館藏品展」最終日
4. 12 館内ペンキ塗装、保管庫入口ドア他
4. 13 市立米沢図書館より国絵図2点借用 5/14返却
4. 14 防災点検、山形県立博物館より来館
4. 16 屏風箱修理 蓋（洛中洛外図）上、下（下条桂谷）鍍銀（寄託品）
4. 17 特別展「上杉家文書の世界」 開館5月7日まで
4. 30 仙台市史編さん室 伊藤氏来館
5. 3 上越市市長夫人来館
5. 4 上杉隆憲名誉会長紹介の真田氏他来館
5. 19 「館藏品展」 5月29日まで
5. 22 煙草盆
5. 28 昆虫展について打合せ（於 文化課）
6. 2 「煙草盆展」展示資料借用
6. 4 「上杉家文書の世界展」借用展示品返還
6. 5 特別展「煙草盆展」開催 7月11日まで「展示室」で「上杉鷹山公展」
6. 11 煙草盆の寄贈受領式で梅津氏、市長・教育長他来館、日本たばこ産業木村氏来館
6. 20 和歌山県木村氏夫妻来館
7. 7 沖田事務局長文化財保護委員会出席
7. 10 ABM機械整備回線工事、14日に残工事
7. 15 NTT回線工事（プッシュホン、FAX）
7. 19 アメシロ消毒
7. 24 特別展「昆虫展」開催 8月22日まで
7. 29 成島焼切立かめ2点、すず1点 市観光協会へ貸出し ～6. 3. 31
7. 30 講演会講師 中根氏夫妻来館
7. 31 15時より講演会「昆虫の魅力と調べ方」
8. 5 埼玉県毛呂山町教育委員会より来館
8. 6 梅津氏、菊地氏へ資料返却
8. 10 農村文化研究所へ資料返却
8. 19 静岡県助役他来館
8. 22 川西町小松皇太神社蔵田氏から甲冑一領寄付、受領
8. 24 館内外の清掃 26日、31日も
8. 31 宮坂考古館より学芸員実習生来館
9. 2 洛中洛外図屏風借用（兩田氏より）
9. 4 特別展「米沢藩の絵師たち」 9月12日まで
9. 9 沖田 刀剣展等で文化課と打合せ
9. 14 中村工務所様より寄附申出書受領（竹俣美作書状一通）
9. 15 黒川氏より寄附申出書受領（上杉直丸書状一通、上杉駿可守覚一通）
9. 22 財日本美術刀剣保存協会の資料借用のため上京、受託 10/25返却
9. 24 財日本美術刀剣保存協会岩田氏、展示作業指導のため来館
9. 25 特別展「日本刀展」開催 10月24日まで
9. 28 館内清掃日のため16時閉館
9. 29 角屋上杉家文書調査のため上杉家収蔵室～10. 1 沖縄市職員来館
10. 2 名古屋城管理事務所より来館 資料貸出「志駄千代松宛、宗心（上杉謙信）書状」11/23返却
10. 5 下条桂谷返送困包 館内清掃のため16時閉館
10. 8 市長室にて蔵田順治氏寄贈甲冑引渡式
10. 15 業者、市文化課と改築打合せ 市長会関係来

館

10. 19 「上杉本洛中洛外図屏風」展示
10. 21 東京都目黒区学校職員来館
10. 22 市教育委員会にて博物館資料購入審査会
10. 24 財日本美術刀剣保存協会岩田先生来館
10. 25 日本美術刀剣保存協会へ借用資料返却のため出張
10. 27 山形県立遊学館職員来館、防災機器点検
10. 28 館内外清掃
10. 30 「上杉鷹山公祭」協賛の「館藏品展」～31
11. 1 上杉本洛中洛外図複製制作の色合せ作業のため座の文化伝承館へ搬出
11. 2 「上杉鷹山公とその周辺」 12月26日まで
11. 3 文化の日 無料公開
11. 11 山形県立図書館から鷹山資料借用の件で来館
11. 12 図書館研究大会出席者来館
11. 14 上杉隆憲氏著「上杉家年表10冊寄贈受領」
11. 16 市文化課にて、平成6年度予算打合せ、上杉茂憲顕彰で沖縄市議員来館
11. 18 沖縄県立博物館萩尾氏上杉茂憲関係資料調査のため来館
11. 25 山形県立図書館より来館
11. 26 文化庁より来館、桜井裕一作「腰かけた女」市民ギャラリーへ～12. 24
12. 1 熊本市史編さん室より来館
12. 7 昆虫整理について文化課と打ち合せ
12. 13 馮愛珠氏来館
12. 15 豊橋市美術博物館学芸員岡田氏来館
12. 22 博物館改修工事打合せ
12. 24 「上杉本洛中洛外図屏風」複製品、大塚巧芸社より引渡し
6. 1. 4 臨時休館日
1. 11 「新収藏品展」開催 3月31日まで、文化庁文書貸出、博物館実習千葉大長沼君～1. 16
1. 12 山形県立図書館から資料借用打合せで来館
1. 13 文化庁宮島氏来館
1. 14 県立図書館へ資料貸出し 2/22返却
1. 17 改修工事（フローリング、電気）～19、博物館実習千葉大佐藤君～1. 25
1. 20 上杉本洛中洛外図複製 内覧会打合せ
1. 24 上杉本洛中洛外図複製 内覧会10時～15時
1. 26 文化財保護デーで火災訓練
2. 2 水道管凍結復旧工事 雪下ろし作業
2. 7 館内照明点検
2. 11 国税監査局より来館、宮崎県高鍋町議会議長他来館
2. 18 梅津氏より寄附申し出のこうがい・かんざし一式預り
2. 19 館内照明点検
2. 24 厚生省より来館
2. 25 新潟県企画課より来館 館内電気工事のため16時閉館
3. 3 山形県立図書館長来館
3. 4 臨時休館
3. 5 米沢市歴史民俗博物館構想専門委員会工（於市教育委員会）へ沖田出席、国立歴史民俗博物館湯浅氏来館
3. 10 上杉家文書マイクロフィルム撮影で角屋外勤
3. 11 博物館資料購入審査会 14時30分閉館
3. 15 ABM警備機器保障取付工事完了 山形県財務事務所より来館 朝日町今野氏来館
3. 18 事務室改修工事竣工検査
3. 23 文化庁神野氏来館 大阪府箕面市議会議員来館

平成5年度事業

展 示

米沢市立上杉博物館開館25周年記念特別展

(1) 上杉家文書の世界

—謙信登場—

重要文化財の上杉家文書より毎年テーマを設定し展開しているが、平成5年度は関東管領山内上杉家と謙信の生家、越後守護代長尾家を中心に支流諸家の文書も加えて、謙信登場に至る歴史をたどった。

上杉氏は藤原鎌足につらなる勳修寺流藤原氏、祖重房が丹波国何鹿郡上杉荘（現京都府綾部市上杉）を領して上杉氏を名乗った。重房は鎌倉将軍宗尊新王に従って関東に下向、重房の孫、清子が足利貞氏に嫁し尊氏、直義を生んでから一族は重用され栄えた。以後上杉氏は数家に分かれるが山内上杉氏が宗家となって関東管領職を継承した。他方、長尾氏は山内上杉氏の家宰、守護代として同族は上野・越後に分布。越後府中の長尾氏は越後守護代として主家（越後守護上杉氏）をしのいで実権を握った。長尾景虎（上杉謙信）は上杉憲政から関東管領の地位と上杉の姓を譲られ、名実ともに越後の国守となった。

出展資料より次に数点紹介する。

足利直義御教書（康永3年）10月20日

上杉憲顕が守護領の不足分として越後国上田荘内の地を幕府から与えられたことを示す文書。宛先の民部大輔は上杉憲顕。

上田荘（現新潟県六日町、塩沢町、湯沢町）を実際に管理したのは、越後守護代長尾氏の一族である上田長尾氏である。この系統から後に初代米沢藩主上杉景勝が誕生する。

上杉長棟（憲実）置文（文安元年9月カ）

新田氏を追って越後に入部した守護上杉氏は、国内の国衙領を一括して吸収することに成功した。最初に国衙領を得たのは、将軍足利尊氏の伯父にあたる上杉憲房だったが、憲房のあととは二分されて憲顕・憲藤の二子に配分された。そのうち憲顕の分は関東の山内上杉氏に伝えられ、一方憲藤に与えられた半分は代々の越後守護が相伝することとなった。

上杉朝興書状（大永5年）3月23日

関東が他国から攻められて嘆かわしい状態にあるので、長尾為景に対し合力を求めた書状。

上杉朝興は、扇谷上杉朝良の養子で江戸城主。大永4年（1524）、北条氏綱に追われて河越城に移った。家勢を挽回できないまま、天文6年（1537）河越城で没した。宛先の長尾信濃守は長尾為景で上杉謙信の実父。この文書は切封で当時のまま保存されている好例である。

上杉玄清（定実）書状

10月23日

上杉定実が出陣中の長尾為景に送った書状。留守中の春日山城は何事もなく無事であるから安心するように伝えている。文中「おさなき御かたがた」の中に、幼い謙信も含まれていたと考えられる。

上杉定実は最後の越後守護。長尾為景に押され養父房能を自害させて越後守護となる。長尾晴景が弟景虎（謙信）と争うと、両者を和解させ、景虎を春日山城主とした。伊達稔宗の子時宗丸（実元）を養子に迎えようとしたが、まともらず越後守護上杉氏は絶えた。

室町將軍家（足利義輝）御内書

（永禄2年）6月26日

將軍足利義輝から長尾景虎（上杉謙信）に宛てたもので、越後に逃れていた関東管領上杉憲政に関して、謙信の強い発言権が公認された。2年後の永禄4年、謙信は鎌倉の鶴岡八幡宮前で正式に関東管領上杉家を相続した。

小説の影響などで、若い女性の来館者が急増するなど、それぞれ戦国時代に想いを馳せたようである。

会 期 平成5年4月17日～5月7日

主 催 米沢市立上杉博物館

主 管 財米沢上杉文化振興財団

関連印刷物

パンフレット B5版 4ページ 3,000部
リーフレット B5版 2ページ 5,000部
ポスター B2版 250部



ポスター

- 米沢市所有
〃
〃

仁者靜 智者動

壬子夏月八日



- その他の古文書
武衛流秘伝書、上杉景勝書状
武締之次第、直江兼統書状
具足着飾之図、押前日記
伊達政宗書状
- 絵図
米沢福島ニテ三拾万石之御絵図
越州春日山城跡之図
- 上杉謙信肖像 鳥谷幡山画、東郷平八郎讃
- 上杉謙信座像
- 甲 冑
紫糸威二枚胴具足 附唐冠兜
坂田采女所用具足
鎖鎧
黒漆塗六間筋兜、阿古陀型十六間筋兜
- 火 縄 銃
10匁筒（攝州住□□屋小兵衛作）、20匁
- 彈丸作り道具
- 朱漆塗弓、重藤弓（しげとうのゆみ）
- 空穂（うつば）
- 弓、空穂台
- 刀 無銘（下原照重）
- 長刀
- 直江槍

"
"
"
"
"
"
"

"
"
"
"

"
"
"
"
"
"
"

(2) 生活文化史 煙草盆 —梅津宮尾コレクション—

お客があれば、何をさておきまず煙草盆を出してもてなすということが紙巻煙草の出現により、煙草盆がその使命を果たすまで（明治期）あった。その光景を時代劇や浮世絵に多く見ることができる。

本年度、米沢市在住の梅津宮雄氏より煙草盆を主とし、煙草入れ、キセル、羅字すげかえ道具などの喫煙具、たばこ屋の看板など100余点の寄贈があった。大名所有のものや、蒔絵、螺鈿を施した豪華なものではないが、人々の生活と密接に結びついてきた遺産である。

身近家具として人々に広く親まれてきた煙草盆の存在を認識し、庶民自らの工夫と知恵により生まれた煙草盆の魅力に想いをあらたにする展覧会であった。また米沢と煙草の歴史についても知る機会となった。

米沢でも煙草は流行し、寛文の頃には一般庶民も喫煙を楽しむようになっていた。米沢藩は幕府の方針に従い幕府の煙草栽培・喫煙の禁令はその都度領内に達せられたが、江戸中期以降は主要産物の一つになり領外にも移出された。これが「米沢たばこ」である。

上杉吉憲の時代に煙草の本田栽培が禁止された時、関村・綱木村ではそれに対する請願が出され、吉憲も代官の裁量において煙草の本田栽培を許可した程、米沢の煙草栽培は盛んであった。寛政4年（1792）、上杉治憲の国政大改革（藩主は上杉治広）で、国産奨励を説いた「樹畜建議」の中に「煙草は盛なる御国産なれば改めて世話にも及ぶまじく候」とあり、米沢の煙草がいかにか利益を上げていたかがわかる。また大倭約が行われた際、奢侈にあたる喫煙具は厳重に戒められたが、喫煙・煙草栽培については禁止されず、上杉治憲も愛煙家だったと言われている。

会 期 平成5年6月5日～7月11日

主 催 米沢市立上杉博物館

主 管 財米沢上杉文化振興財団

関連印刷物

図 録	B5版	28ページ	200部
パンフレット	B5版	4ページ	2,000部
ポスター	B2版		200部



ポスター



展示資料目録

- 1 蔵王堂の煙草盆
- 2 黒漆塗手付煙草盆
- 3 箆筒形煙草盆
- 4 黒漆塗箆筒形煙草盆
- 5 黒漆塗手付煙草盆
- 6 黒漆塗手付煙草盆
- 7 黒漆塗花菱透四方形煙草盆
- 8 箱形煙草盆
- 9 ひょう透彫手付煙草盆
- 10 自然木煙草盆
- 11 四方形煙草盆
- 12 煙草盆
- 13 長角形煙草盆
- 14 雛人形の煙草盆
- 15 看板（ダルマ形）
- 16 看板（キセル形）
- 17 長角形煙草盆
- 18 黒漆塗長角形煙草盆
- 19 長角形煙草盆
- 20 長角形煙草盆
- 21 長角形煙草盆
- 22 長角形煙草盆
- 23 長角形煙草盆
- 24 長角形煙草盆
- 25 長角形煙草盆
- 26 長角形煙草盆
- 27 長角形煙草盆
- 28 長角形煙草盆
- 29 長角形煙草盆
- 30 四方形煙草盆
- 31 四方形煙草盆
- 32 四方形煙草盆
- 33 角形煙草盆
- 34 角形煙草盆
- 35 角形煙草盆
- 36 角形煙草盆
- 37 角形煙草盆
- 38 丸形煙草盆
- 39 丸形煙草盆
- 40 丸形煙草盆

- 41 丸形煙草盆
- 42 手付煙草盆
- 43 手付煙草盆
- 44 手付煙草盆
- 45 提煙草盆
- 46 提煙草盆
- 47 提煙草盆
- 48 提煙草盆
- 49 自然木煙草盆
- 50 自然木煙草盆
- 51 自然木煙草盆
- 52 自然木煙草盆
- 53 煙草盆
- 54 火入れ
- 55 火入れ
- 56 火入れ
- 57 香 炉
- 58 キセル
- 59 煙草入れ
- 60 羅宇^{らう}すげかえ道具
- 61 手焙り
- 62 灰吹（だるま）
- 63 行燈
- 64 行燈
- 65 香炉
- 66 四方形煙草盆
- 67 火入れ
- 68 のべキセル

以上 個人蔵
(財)農村文化研究所

個人蔵



(3) 第4回 昆虫展 ―水辺の昆虫たち―

4回目の昆虫展は、「川に生きる」昆虫をとりあげた。吾妻山頂の高層湿原から米沢盆地の水田地帯までを想定して、川とその周辺に暮らしている昆虫を標本、生態画、影像、水槽での生態展示など様々なかたちで展示した。

VTR「水辺の昆虫」には置賜地方の川で取材したヒゲナガカワトビケラの群飛と、その誕生までのドラマがおさめられている。ホタルが出始める頃の夕ぐれ時、川面すれすれの高さを群をなして遡上していく虫、それがヒゲナガカワトビケラである。幼虫時代に小さな石を糸でかためて巣を作るので「石とじ」と言われ、釣のエサにも用いられる。

最近水生昆虫によって川の汚れを調べることがよく行われるようになってきたが、本昆虫展によって、それらの幼虫がどのような成虫になって、どのような暮らし方をしているか、などの興味にもつながったようである。

期間中、何度も訪れる子どもや、夏休みの研究に取り組む子どもの姿もあった。

会期中、「昆虫の魅力と調べ方」と題し、中根猛彦氏（元鹿児島大学教授 理学博士）による講演会を開催、多数の参加者を得た。

会 期 平成5年7月24日～8月22日

主 催 米沢市立上杉博物館

共 催 山形県教育委員会

主 管 財米沢上杉文化振興財団

関連印刷物

図 録	B5版	106ページ	500部
パンフレット	B5版	4ページ	8,000部
広報リーフレット	B5版	2ページ	15,000部
ポスター	A2版		250部

講演会

演 題 「昆虫の魅力と調べ方」

講 師 元鹿児島大学教授 中根猛彦氏

時 間 15:00～16:00

場 所 本館展示室



展示昆虫

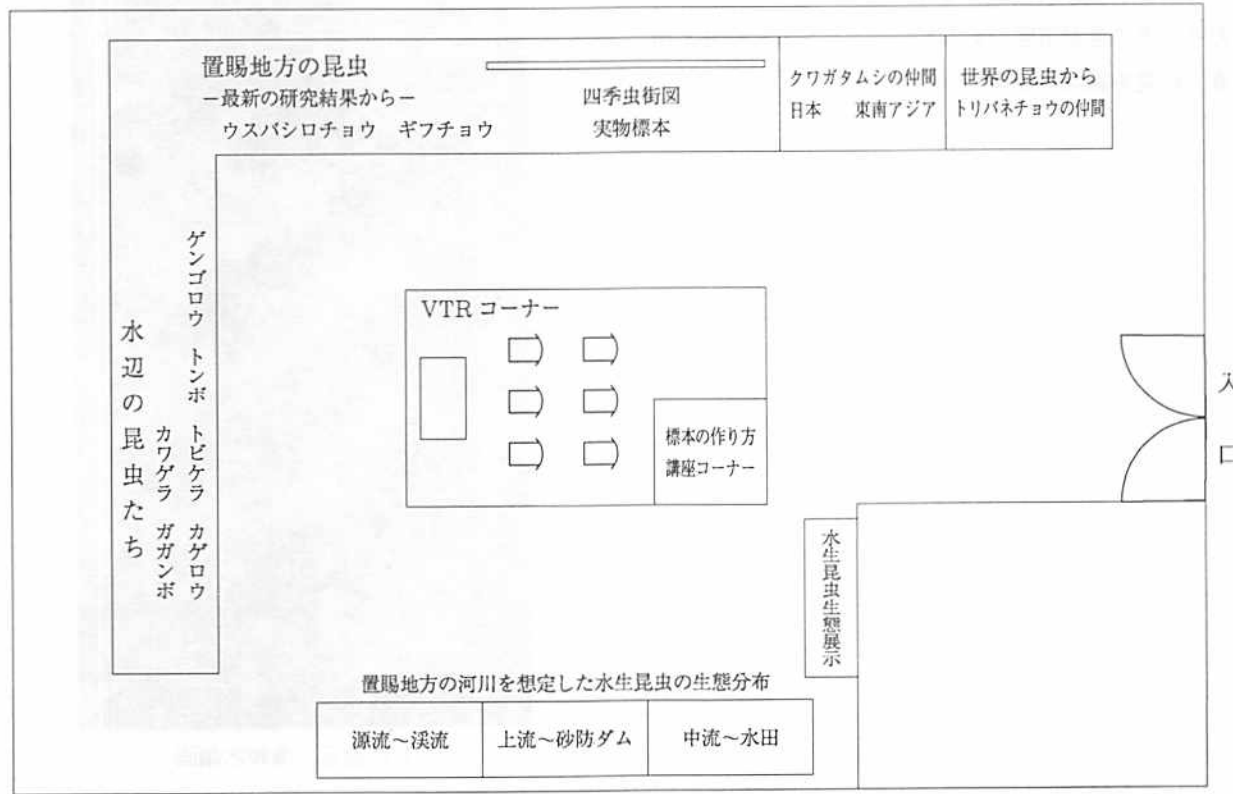
- 1. 世界の昆虫から トリパネチョウの仲間
- 2. クワガタムシの仲間①東南アジアのクワガタムシ
クワガタムシの仲間②日本のクワガタムシ
- 3. 生態図「四季虫街図」とその実物標本
置賜地方の昆虫・最新の研究結果から
- 4. その1 春の女神、ギフチョウとヒメギフチョウ
の混棲地発見
- 5. その2 世界でもっとも黒いウスバシロチョウを
探す！

●水辺の昆虫

- 6. ゲンゴロウの仲間
- 7. トンボの仲間
- 8. トビケラ、カワゲラ、カゲロウ、ガガンボの仲間

	日本産	外国産	計
チョウ	8,313	7,117	15,430
ガ	1,300	200	1,500
トンボ	706	—	706
バッタ・コウロギ	823	262	1,085
ハチ・アリ	1,716	—	1,716
甲虫	(43,982)	(18,697)	(62,679)
ハンミョウ	993	985	1,888
オサムシ	28,000	2,810	30,810
ハネカクシ	703	—	703
シデムシ	573	—	573
クワガタムシ	711	1,944	2,655
コガネムシ	1,765	4,479	6,244
コメツキムシ	318	—	318
タマムシ	480	2,439	2,919
カミキリムシ	4,140	2,639	6,779
ハムシ	2,055	—	2,055
ゾウリムシ	1,167	—	1,167
その他の甲虫	3,077	3,491	6,568
他の昆虫	811	1,215	2,026
解説・未整理標本	2,420	1,036	3,456
計	60,071	28,527	88,598

展示配置



(4) 米沢藩の絵師たち

米沢藩には藩の御用絵師として、南、北両目賀多家が代々仕えている。目賀多家は狩野派に師事し、その画法は小田切寒松軒や若井牛山等弟子達へと引き継がれた。

当時、藩の財政は窮乏しており、それに伴い、士民の生活も困窮し、絵を学ぶために京や江戸へ出向く余裕はなかった。そのため絵を志す者の大半が目賀多家に師事した。

今回は、目賀多家を代表する絵師、目賀多^{もりやき}守如、^{もり}守^{もり}息、^{のぶ}信^{のぶ}済の作品を中心に、当時の日本画の主流であった狩野派の画法にふれ、また、それが米沢絵画界にどのような影響を与えたのかを考えたい。

狩野派（特に江戸狩野派）では、段階に従って手本が与えられ、それを正確に模写すること（「学画」）が修業であり、その模本（粉本）は、次に自分が教えたり、描いたりする時の手本となった。独自の画風を持つと認められるまでは10年以上かかった。これを粉本主義といい、狩野派の絵師の技術を一定の水準に保つためのものであった。

目賀多家の絵師たちも多くの粉本を所持していたが、現在までに知られていなかった粉本、作画が発見され、あわせて展示した。

目賀多家の絵師の中にはその生存年代が末詳であったり、その号が不明であるものなどがあり、今後も調査・研究を続けていきたい。

会 期 平成5年9月4日～9月19日

主 催 米沢市立上杉博物館

主 管 (財)米沢上杉文化振興財団

関連印刷物

パンフレット B5版 4ページ

ポスター A2版 200部



月明過雁 濱崎木麟画

展示資料目録

- 賢人之図（目賀多守如）双幅
- 賢人之図（目賀多守息）双幅
- 山水図（目賀多雲川）
- 山水諸本—目賀多家粉本—（目賀多信済主）
- 御殿鷹（目賀多信済）
- 赤鐘馗（目賀多守澄）
- 御座敷之縮図（守息筆 左近司惟春主）
- 雲海之図（目賀多雲林）
- 御掛物ノ写（頼庵筆 守息筆粉本）
- 目賀多家粉本（山水探幽筆 目賀多信済主）
- 粉 本（目賀多守直主）
- 花卉粉本（目賀多信済）
- 源氏物語之図（目賀多家粉本）
- 粉 本（目賀多信済）
- 粉 本（目賀多守澄之写）
- 愛宕・羽山之図（目賀賀信済）
- 花鳥之図（目賀多守直）
- 粉 本（目賀多信済主）
- 題不詳（目賀多信済）
- 西遊記（筆者不詳）
- 竹森七賢人之図（八木米横）
- 席上我筆（八木米横）
- 浅鋒山水図（菅原白龍）
- 春景山水（下條桂谷）三幅
- 日課観音—複製（下條桂谷）
- 福島—米沢間鉄道工事之図
（鈴木蘭涯）23 枚
- 盆栽之図（鈴木蘭涯）
- 富士山之図（窪島紫陽）
- 扇画面（中川雪堂）
 - ♪ （小田切寒松軒）
 - ♪ （目賀多信済）
 - ♪ （佐藤雪斎）
 - ♪ （濱崎木麟）
 - ♪ （佐藤雪斎）
- 山水之図（小田切寒松軒）
- 竹に雀之図（佐藤雪斎）
- 月明過雁（濱崎木麟）
- 仙人図（若井牛山）
- 人物之図（百東幽谷）
- 螢光読書（今府直峰）
- 蓮（澤口静山）
- 春 景（高橋波藍）

出展全資料 米沢市立上杉博物館蔵



蓮 澤口静山画



米沢市立上杉博物館開館 25 周年記念特別展

(5) 第 23 回 日本刀展

— 桃山時代の名刀 并 拵 —

昨年の「室町・戦国時代の名刀展」に引き続き、次の時代である「桃山時代の名刀」をテーマとして展観した。

刀剣の場合は、作風上の特色によって、慶長・元和期を中心に、ほぼ寛永年間（1596～1643）頃までの間を、普通桃山時代と呼ぶ。日本刀は、慶長を境に、それ以前の古刀と区別して、以後のものを新刀と称している。新刀はその時代によって、いくつかに分けられるが、その第一期というべきものが、慶長・元和を中心として、寛永年間頃までの時代であり、これを初期新刀あるいは慶長新刀と呼ぶ。

この桃山時代の刀剣の特色の第一は、製作地が異なることである。古刀期の製作地は、有力な豪族とか大社寺の庇護が得られる所でなければならず、また良質の鉄が豊富に産出され、水質のよい地方に限られた。しかし、新刀期に入ると大名たちは城下町の経営に着し、刀工達もこの城下町を中心に集まり、発展し、大名の抱え鍛冶として活躍する者も多くなった。第二に、^{どがた}地鉄に地方的特色がなくなったことがあげられる。新興の都市が必ずしも鉄の産地に適さなくとも、陸路、海路等交通網の発達と安全の確保により、また大名間での交易により、原料鉄は需要地に容易に運ばれるようになったからである。注目すべき第三の特色は、桃山文化の大きな特色としてあげられる外来（南蛮）文化の影響が、刀剣にも反映したことである。

戦乱のため刀の消耗が激しく、多量に生産しなければならなかった戦国時代から、天下安定への世上を反映して豪華絢爛になり、前述のような特色を有する桃山時代の名刀の魅力を静観いただけたものと思う。

会 期 平成 5 年 9 月 25 日～10 月 24 日

主 催 米沢市立上杉博物館

共 催 山形県教育委員会

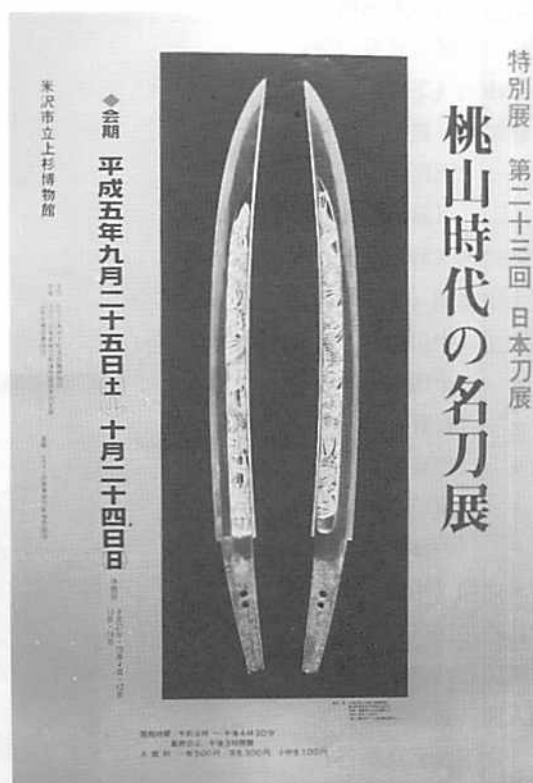
(財)日本美術刀剣保存協会米沢支部

主 管 (財)米沢上杉文化振興財団

後 援 (財)日本美術刀剣保存協会

関連印刷物

図 録	B 5 版	34 ページ	500 部
パンフレット	B 5 版	二つ折り	4,000 部
ポスター	B 2 版		250 部
入場券			4,000 枚



ポスター

展示資料目録

- 特別重要刀剣
1. 短刀 銘 山城国西陣住人埋忠明寿
所持土田□理進
慶長拾三年三月吉日
長さ 八寸五分
- 重要刀剣
2. 刀 銘 国広
長さ 二尺一寸七分
- 特別重要刀剣
3. 脇指 銘 国安
長さ 一尺四寸四分強
- 重要刀剣
4. 刀 銘 阿波守藤原在吉
慶長二年九月吉日
長さ 二尺四寸二分
- 重要刀剣
5. 脇指 銘 越後守藤原国儔
長さ 一尺〇二分半
- 重要刀剣
6. 刀 銘 出羽大掾藤原国路
長さ 二尺三寸六分
- 重要刀剣
7. 刀 銘 伊賀守金道
長さ 二尺三寸六分半
- 重要美術品
8. 刀 銘 丹波守吉道
長さ 二尺四寸八分
- 特別重要刀剣
9. 脇指 銘 越中守正俊
長さ 一尺四寸二分半
- 特別重要刀剣
10. 刀 銘 和泉守藤原国貞
長さ 二尺三寸五分強
11. 刀 銘 河内守藤原国助
長さ 二尺四寸九分強
- 薙刀直し
12. 脇差 銘 肥後大掾藤原貞国
長さ 一尺六寸三分弱
13. 刀 銘 辻村越中守藤原高平（花押）
元和八年三月三日
長さ 二尺二寸九分
- 重要刀剣
14. 刀 銘 繁慶
長さ 二尺三寸
（切付銘）永井信濃守手前ニテ三ツ同
様上壱ノ胴中貳胴下八枚目切手山野
加右衛門見使中村小兵衛
15. 刀 銘 （葵紋）肥後大掾藤原越前康継
長さ 二尺二寸七分
- 重要刀剣
16. 脇指 銘 相模守政常入道
長さ 一尺一寸六分強
- 重要刀剣
17. 刀 銘 山城大掾藤原国包
長さ 二尺六寸四分
- 特別重要刀剣
18. 刀 銘 於南紀重国造之
長さ 二尺三寸五分
- 重要刀剣
19. 脇指 銘 大和易佳人九郎三郎重国居
駿河州後於紀州明光山作之
羽掃 為都筑久太夫氏勝作之
元和八年戌八月末日
（棟に）鑿物天下一池田権助義照
長さ 一尺三寸八分
- 重要刀剣
20. 刀 銘 播磨守藤原輝広
長さ 二尺三寸五分
- 重要刀剣
21. 刀 銘 肥前国忠吉
長さ 二尺〇七分
- 特別重要刀剣
22. 短刀 銘 肥前国忠吉
長さ 一尺〇六分
切物藤原宗長

(6) 上杉鷹山公とその周辺

世相を反映して、様々な角度から上杉鷹山に対する関心が高まっている。

上杉鷹山は戦国武将として名高い上杉謙信から数えて十代目、また初代米沢藩主上杉景勝から九代目にあたる。日向国高鍋藩主秋月種美の次男。上杉家とは女系を通じて血縁にあり、米沢藩主上杉重定の養嗣子となった。元服後治憲と名乗り、十七歳で家督を相続した。良き学問の師に恵まれ、有能な家臣の登用を行い、財政危機と大飢饉で動揺する米沢藩の再建に力を注いだ。困難な現実との遭遇、自らの道徳を実践したストイックな生活信条、言行録が伝える数々のエピソードなどが人々に教訓と感動を与える。

平成元年、市制百周年の折をはじめ本館でも上杉鷹山に関わる展覧会を開催してきたが、本年は上杉鷹山をとりまく時代や人々について、未公開の文書を中心に展示した。とりわけ、凶作から米問題という世相を反映して備初蔵、備荒貯穀の心得などの古文書が話題をよんだ。

会 期 平成5年11月2日～12月6日

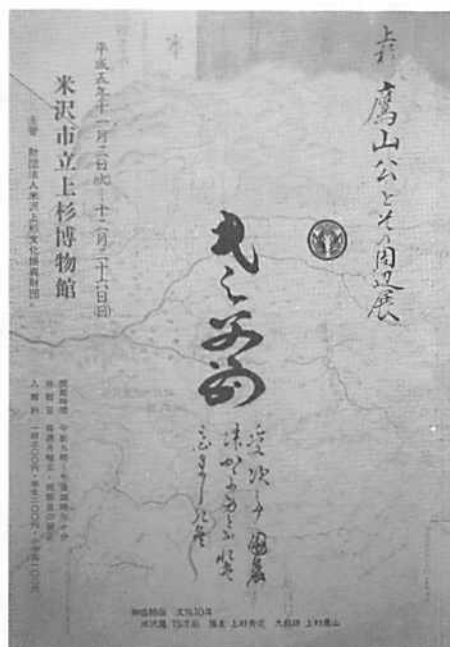
主 催 米沢市立上杉博物館

主 管 (財)米沢上杉文化振興財団

関連印刷物

パンフレット B5版 4ページ 4,000部

ポスター B2版 200部

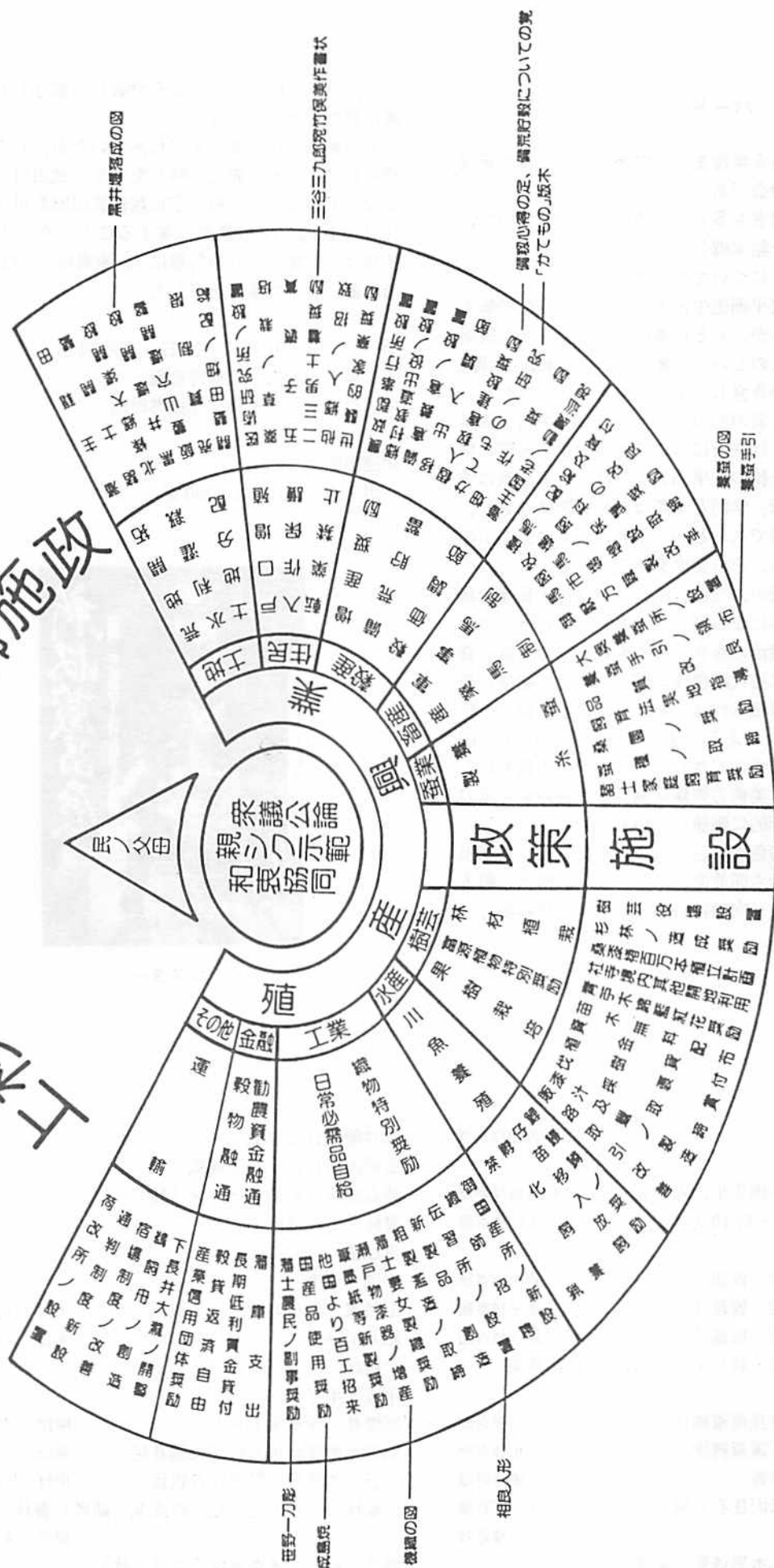


ポスター

展示資料目録

初入部の図	狩野文信筆	市立上杉博物館蔵	米沢城図	市立上杉博物館蔵
敬師郊迎の図	狩野文信筆	〃	米沢城御三階写真	〃
写真パネル	普門院一字一涙碑	〃	上杉鷹山デッサン	目賀多信済筆 〃
細井平洲像	〃	〃	色部典膳宛上杉治憲(鷹山)書状	〃
細井平洲書	〃	〃	藤(原)治憲(上杉鷹山)書	〃
神保蘭室肖像	〃	〃	「平洲先生七十の初度を遙かに賀す」	〃
神保蘭室書	〃	〃	隠退の図	狩野文信筆 〃
渋井太室書	〃	〃	伝国の辞(複製)	〃
大石左膳手扣(てびかえ)	個人像	〃	上杉氏 系譜覧	〃
総評	市立上杉博物館蔵	〃	大石左膳 書状	個人蔵
嚶鳴館遺稿版木	〃	〃	上意書	市立上杉博物館蔵
写真パネル	興譲館 扁額	〃	愛宕山雨乞いの図	狩野文信筆 〃
写真パネル	「学則」扁額	〃	写真パネル	上杉鷹山籍田之移籍碑 〃
山水図	目賀多信済筆	〃	年貢完納の感状	〃
短刀 銘	平定盛 上杉鷹山所用	〃	七家騒動の図	狩野文信筆 〃
刀 銘	於江府長運成綱俊作之(初代)	〃	七家騒動顛末	〃
脇指 銘	於江府長運成綱俊(初代)	〃	大蔵院宛	森平右衛門利真 書状 〃
脇指 銘	長運成綱俊造之(二代)	〃	竹俣美作宛	誓司 〃

上杉 米 山公産業御施政



ーパンフレットよりー

(7) 新収蔵品展 パート1

平成元年度から5年度までの寄贈、購入による新収蔵資料の公開の機会であった。

来館された寄贈者も多く、寄贈後の管理について、寄贈者との信頼を結ぶ機会でもあった。

新収蔵品の若干について次に説明する。

上杉鷹山書「賀平洲先生古希」は米沢市在住の個人からの寄贈であるが、もとは鷹山の学友であった板屋胤知が拝領したものという。鷹山がこれを揮毫した際、墨が落ちたため書き直し、平洲先生に差し上げたが、こちらは書き直し前のものと伝えられる。明治十四年の東北巡幸の折、行在所において明治天皇の天覧に供したという由来を持つ。平洲先生とは、折衷学派の儒者で上杉鷹山の師。学問と実際は密接な関係にあり、学問の目的は実践であるという平洲の教えは、鷹山の信念として貫かれ、その態度を決定づけた。

平成3年度寄贈の刀二振、脇指一振は初代長運齋綱俊と石黒綱倫の手になる郷土刀である。江戸時代の米沢藩における刀鍛冶の存在と技術を知る上で貴重な資料といえる。特に初代綱俊作の刀と脇指は、綱俊が最も得意とした備前伝の作品であり、刀銘から快心の作であることがうかがえる。また嘉永元年(1848)10月に大小揃いとして作刀されており、同時の例も珍しい。財団法人日本美術刀剣保存協会が甲種特別貴重刀剣と認定した美術的に価値の高いものである。

芋川家伝来鉄錆色塗紺色糸威二枚胴具足は、矢羽根型前立を配した十六間筋兜、頬当、采配、臙当、鎧下袴、芋川家の家紋(向鶴に若松)が入った旗指物と一式がそろっている。

江戸時代に修復されたようで新しい部分もあるが、桃山期の作と思われる。

芋川家は、代々最上家に仕えていたが、右衛門佐正章の代に最上家(義光の時)を去り、武田信玄の家臣となっている。次の越前守正親は武田家を退き、天正10年(1582)上杉景勝に属することとなった。以後子孫は、侍組に入り奉行職に(国家老相当)就くなど、米沢藩において重きをなした。

会 期 平成6年1月11日～3月31日

主 催 米沢市立上杉博物館

主 管 (財)米沢上杉文化振興財団

関連出版物

ポスター B2版 250部



ポスター

展示資料目録

昭和63年度

目賀多家粉本 目賀多芳徳様寄贈

平成元年度

上杉鷹山書 賀平洲先生古希詩軸 羽生田敬蔵様寄贈
昆虫標本(730箱・約10万点) 山谷文仁様寄贈

平成2年度

窪島紫陽画 油絵 仮題「風景」 窪島八重子様寄贈
窪島紫陽画 油絵 仮題「清流」 窪島八重子様寄贈
窪島紫陽画 油絵 仮題「水辺」 窪島八重子様寄贈
捕物道具(突く棒・刺し又・袖搦み)・捕物装束

平成3年度

刀 銘 於江府長運齋綱俊作之 長岡 正様寄贈
脇差 銘 江府長運齋綱俊 長岡 正様寄贈
山田蟻堂 七絶の書 今野 優様寄贈
刀 銘 羽州米沢住石黒綱倫 横山 了平様寄贈
扶箱 吉池 貢様寄贈

本間国生画 紙本水墨淡彩「嵐溪漁火」

平田東助筆 七絶三行

雲井龍雄日記屏風

金剛流謡狂言十八図屏風

椿貞雄画 鉛筆デッサン「猫」

書跡「上杉鷹山策」

直江鑑

平成4年度

上杉家大名行列絵図(7点)

木村 尚武様寄贈

細井平洲書

木村 尚武様寄贈

火縄銃 30匁

平成5年度

喫煙具(煙草盆118点)

梅津 宮雄様寄贈

鉄錆色塗腰紺色糸威二枚胴具足

蔵田 順治様寄贈

三谷三九郎宛竹俣美作書状留

中村 哲夫様寄贈

大殿様(上杉重定)宛上杉直丸(顯孝)書状

黒川 清助様寄贈

脇差 銘 長運齋綱俊造之(二代)

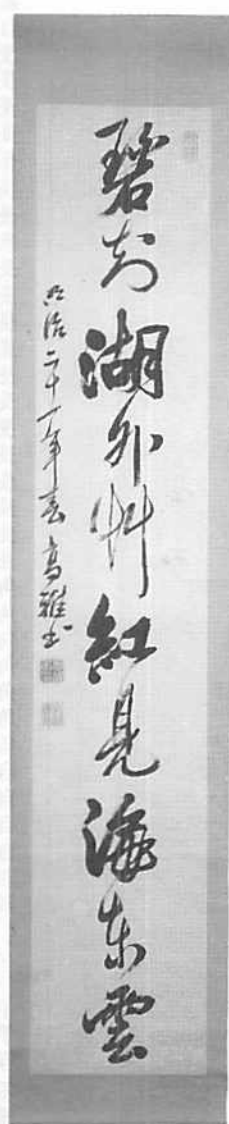
千坂高雅書 五言詩

収 集

平成5年度受入れ資料 (伝来名称のまま)

分 類	資 料 名	形 態	件 数	受入種別	寸 法 (cm)
武 具 類	鉄錆色塗腰紺色糸威武枚胴具足	一式	1	寄贈	28.4 反り0.2
	短刀 長運斎綱俊(二代)作		1	購入	
	槍		1	購入	
	鞆		1	購入	81.0×75.0 64.5×34.7
	旗指物(付、合当理)		3	購入	65.5×55.0
書 籍	宮島詠士「書」	軸	双幅	購入	121.0×53.5
	張兼卿「書」	軸	1	購入	128.0×68.5
	千坂高雅「書」	軸	1	購入	172.7×31.7
	雲井龍雄「書」	軸	1	購入	24.0×52.0
美術工芸	手焙り		1	購入	
民 具	黒漆塗手付煙草盆		1	寄贈	縦30.0×横17.0×高さ18.5
	箆笥形煙草盆(本体)		1	寄贈	32.0× 18.5× 27.0
	黒漆塗箆笥形煙草盆		1	寄贈	33.1× 17.5× 20.5
	黒漆塗手付煙草盆		1	寄贈	28.5× 16.5× 21.0
	黒漆塗手付煙草盆		1	寄贈	32.8× 19.0× 22.2
	黒漆塗手付煙草盆		1	寄贈	24.2× 13.5× 13.5
	黒漆塗花菱透彫四方形煙草盆		1	寄贈	23.7× 23.6× 13.5
	箱形煙草盆		1	寄贈	26.3× 18.0× 24.0
	瓢透彫手付煙草盆		1	寄贈	20.0× 13.0× 11.2
	自然木煙草盆		1	寄贈	最大径20
	長角形煙草盆		1	寄贈	32.2× 18.8× 8.0
	長角形煙草盆		1	寄贈	31.9× 17.4× 7.1
	長角形煙草盆		1	寄贈	23.6× 17.5× 8.6
	長角形煙草盆		1	寄贈	23.2× 14.5× 7.8
	長角形煙草盆		1	寄贈	22.5× 15.7× 8.0
	長角形煙草盆		1	寄贈	25.8× 17.7× 9.5
	長角形煙草盆		1	寄贈	25.8× 17.7× 9.5
	長角形煙草盆		1	寄贈	25.0× 17.6× 14.0
	長角形煙草盆		1	寄贈	28.0× 19.0× 10.0
	長角形煙草盆		1	寄贈	29.0× 18.8× 11.5
	長角形煙草盆		1	寄贈	24.2× 15.2× 9.4
	長角形煙草盆		1	寄贈	22.7× 17.2× 8.3
	長角形煙草盆		1	寄贈	26.3× 15.3× 8.0
	長角形煙草盆		1	寄贈	24.8× 16.0× 7.6
	長角形煙草盆		1	寄贈	26.4× 15.5× 8.5
	長角形煙草盆		1	寄贈	24.2× 15.3× 9.7
	長角形煙草盆		1	寄贈	28.0× 19.2× 9.0
	長角形煙草盆		1	寄贈	36.2× 19.6× 20.4
	長角形煙草盆		1	寄贈	31.6× 18.7× 14.0
	長角形煙草盆		1	寄贈	37.0× 22.0× 21.4
	角 形煙草盆		1	寄贈	21.0× 21.0× 15.2
	角 形煙草盆		1	寄贈	18.1× 18.1× 8.9
	角 形煙草盆		1	寄贈	18.1× 18.1× 8.9
	角 形煙草盆		1	寄贈	15.7× 15.7× 8.5
	角 形煙草盆		1	寄贈	17.8× 17.8× 8.8
	角 形煙草盆		1	寄贈	16.6× 16.6× 8.3
	角 形煙草盆		1	寄贈	
	自然木煙草盆		1	寄贈	最大径27.0×高さ16.0
	自然木煙草盆		1	寄贈	24.0× 12.6
	自然木煙草盆		1	寄贈	27.0× 8.0
	自然木煙草盆		1	寄贈	28.0× 14.0
	四方形煙草盆		1	寄贈	縦22.2×横22.2×高さ22.2
	四方形煙草盆		1	寄贈	17.2× 15.5× 15.4
	提 煙草盆		1	寄贈	21.0× 14.0× 25.5
	提 煙草盆		1	寄贈	13.0× 13.0× 20.0
	提 煙草盆		1	寄贈	14.0× 14.0× 21.0
	手 付煙草盆		1	寄贈	22.1× 15.8× 15.5
	手 付煙草盆		1	寄贈	21.8× 14.3× 13.0
	春慶塗煙草盆		1	寄贈	20.5× 18.0
	朱漆塗手付煙草盆		1	寄贈	17.0× 11.0× 8.0
	煙 草 盆		1	寄贈	30.3× 16.3× 21.1
	煙 草 盆		1	寄贈	14.5× 5.4
	煙 草 盆		1	寄贈	18.5× 10.5× 8.2

分類	資 料 名	形態	件数	受入種別	寸 法 (cm)
	雛人形用煙草盆		1	寄贈	縦15.6×横8.6×高さ15.2
	ミニチュア煙草盆		1	寄贈	
	ミニチュア煙草盆		1	寄贈	
	煙草入れ(梅津宮雄父使用のもの)		1	寄贈	
	かます 縫いつぶし、根はめのう、さし		1	寄贈	
	漆塗金蒔絵象牙使用		1	寄贈	
	煙草入れ		1	寄贈	
	かます 金から革、さし 鹿角		1	寄贈	
	煙草入れ 桜皮製胴乱		1	寄贈	
	米屋用煙草入れ(胴乱)		1	寄贈	
	煙草入れ		1	寄贈	
	鹿角さし 木かます(胴乱)		1	寄贈	
	煙草入れ		1	寄贈	
	胴乱 かます 印伝革、さし 長内、玉		1	寄贈	
	めのう		1	寄贈	
	煙草入れ		1	寄贈	
	鹿角製胴乱(かます、さし、玉とも)		1	寄贈	
	戦後の1つ提げ胴乱(かます桜革製)		1	寄贈	
	戦後の1つ提げ胴乱		1	寄贈	
	戦後の1つ提げ胴乱(かますのみ)		1	寄贈	
	桜革製刻み煙草入れ		1	寄贈	
	亀甲づくり煙草入れ		1	寄贈	
	巻煙草入れ銀細工箱型		1	寄贈	
	葉巻煙草入れ		1	寄贈	
	桜革製刻み煙草入れ		1	寄贈	
	セルロイド製巻煙草ケース		1	寄贈	
	銀製煙草ケース		1	寄贈	
	銀製煙草ケース(海の風景の彫り物)		1	寄贈	
	桐製胴乱(革さし、キセル入れ)		1	寄贈	
	現代灰皿(金属製)		1	寄贈	
	現代灰皿(灰皿・ライター付)		1	寄贈	
	現代灰皿(球形)		1	寄贈	
	現代灰皿(球形、脚3つ)		1	寄贈	
	現代灰皿(陶器製)		1	寄贈	
	羅 字(長8本、短6本)		1	寄贈	
	羅字すげかえ道具一式		1	寄贈	
	刻み煙草「ききょう」		1	寄贈	
	米沢市政100周年記念マイルドセブン		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——筋入唐草紋		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——大友形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——竹に雀図		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——光大寺形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——光大寺形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——光大寺形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——光大寺形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——かわり形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——鈍豆形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——鷹に雀図		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——鷹に雀図		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——石州形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——石州形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——石州形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——石州形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——石州形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——如信形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——如信形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——如信形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——如信形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——如信形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——如信形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——如信形		1	寄贈	
	きせる(羅字きせる)——外国製		1	寄贈	
	きせる(延べきせる)——鈍豆形		1	寄贈	
	きせる(延べきせる)——戦中・戦後		1	寄贈	
	の簡易きせる		1	寄贈	
	きせる(陶製きせる)——戦中・戦後		1	寄贈	
	の簡易きせる		1	寄贈	
	きせる(陶製きせる)——戦中・戦後		1	寄贈	
	の簡易きせる		1	寄贈	
	水煙具		1	寄贈	
	制 札		1	購入	
	鏡 家		1	購入	
	風折烏帽子		1	購入	



千坂高雅「書」

分 類	資 料 名	形 態	件 数	受入種別	寸 法 (cm)
	廻状箱 棹 (付、柄袋 2)		1 4	購入 購入	
文 献	上丸直丸書状 (包装紙付)	包装紙	1	寄贈	32.4× 45.3
	上杉駿河守口上之覚		1	寄贈	19.5× 41.0
	竹俣美作書状留	額 装	1	寄贈	19.0×111.8
	樺軒高		2	購入	
	雪堂詩鈔		1	購入	
	官板從政名言		1	購入	
	燕翼編		1	購入	
	鶴齋先生直物語		1	購入	
	川柳「ほっ句」甲		1	購入	
	浅深帖		1	購入	
	御江戸絵図		1	購入	
	日本略史 上巻 (師範学校編集 明治 8 年10月出版)		1	寄贈	
	日本略史 下巻 (師範学校編集)		1	寄贈	
	日本史略 巻一 (編集人田中義廉 明治10年 1 月10日)		1	寄贈	
	日本史略 巻一 (編集人田中義廉 明治14年 9 月 1 日 (三刻))		1	寄贈	
	日本史略 巻三 (編集人田中義廉)		1	寄贈	
	日本史略 巻四 (編集人田中義廉)		1	寄贈	
	日本史略 巻五 (編集人田中義廉)		1	寄贈	
	改刻 日本史略 巻二 (編集人田中義廉 明治17年 2 月)		1	寄贈	
	改刻 日本史略 巻二 (編集人田中義廉 明治17年 2 月)		1	寄贈	
	小学日本歴史外編第二 (金港堂書籍(株)編集所 明治18年 1 月17日)		1	寄贈	
	改正小学日本地誌 巻上		1	寄贈	
	改正増補 土氏物理小学 上 (土都華氏著・小林六郎訳 明治17年 9 月 (四刻))		1	寄贈	
	改正増補 土氏物理小学 下 (土都華氏著・小林六郎訳)		1	寄贈	
	小学博物指教 上 (青木輔清著)				
	小学博物指教 巻一 (青木輔清著 明治14年 6 月)		1	寄贈	
	地理撮要 巻下 萬国之部 (岡松 谷著 明治16年 9 月 (三刻))		1	寄贈	
	萬国史略 巻二 (師範学校編集 明治 7 年 1 月)		1	寄贈	
	萬国地誌略 巻之二 (師範学校編集)		1	寄贈	
	小学校理科書 巻一 (著者 吉原千代吉・育英社編集所 編纂 明治34年 1 月21日)		1	寄贈	
	尋常小学作文階梯 五 (遠藤秀三郎 編纂・安積五郎校 閲 明治19年 2 月)		1	寄贈	
	高等女子習字帖 初編第一 (武田白著 明治33年 3 月 3 日)		1	寄贈	
	小学習字臨本 (林兎喜太郎・小池春蔭著 明治19年 8 月)		1	寄贈	
	小学修身書要解 巻之三 (近藤常雄編集 明治15年 9 月)		1	寄贈	
	実験日本修身書入門 巻一 (渡部政吉著 明治18年 1 月 18日) 尋常小学生徒用		1	寄贈	
	児童用尋常小学修身書 巻六 (文部省 昭和15年10月30 日)		1	寄贈	
	小学修身書 八 (木戸 麟 明治16年 8 月14日)		1	寄贈	
	小学修身書 十一 (木戸 麟 明治15年10月19日)		1	寄贈	
	女童修身教乃文章 下		1	寄贈	
	实用補修読本 下篇 第二 (金港堂書籍(株)編集所編纂 明治27年11月 8 日)		1	寄贈	
	修訂小学読本 高等科 巻一 (金港堂書籍(株)編集所編纂 明治34年 1 月18日)		1	寄贈	
	高等小学読本 巻之二 (文部省編集局 明治11年 9 月15 日)		1	寄贈	
	高等小学読本 巻之五 (文部省編集局 明治12年 4 月19 日)		1	寄贈	
	日本地誌略 一 (師範学校編集 明治 7 年11月19日)		1	寄贈	
	日本地誌略 二 (師範学校編集 明治 7 年11月19日)		1	寄贈	
	日本地誌略 三 (師範学校編集 明治 7 年11月19日)		1	寄贈	
	改正小学日本地誌略 標註附 巻上 (荒野文雄・坂本美 房編集・郡何通高校正明治 12 年 5 月)		1	寄贈	
	中学化学書第二編 巻之上 (磯野 徳三郎編述 明治16 年 9 月)		1	寄贈	
	中学化学書第二編 巻之中 (磯野 徳三郎編述)		1	寄贈	
	中学化学書第二編 巻之下 (磯野 徳三郎編述 明治16 年 9 月)		1	寄贈	



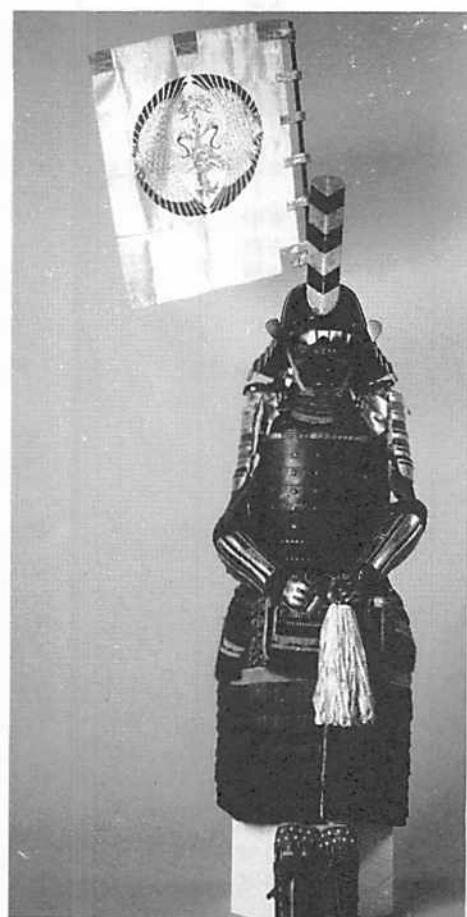
張廉卿「書」



上杉駿河守口上之覺



黒漆塗手付煙草盆



鉄錆色塗腰紺色威貳枚胸具足



短刀 長運齋綱俊（二代）作

収蔵資料件数

現在、収蔵資料の整理中で、1994 年 3 月31日までに確認した収蔵資料件数のみ掲載する。

大 分 類	中 分 類	件 数	
書 跡		148	
絵 画		278	
美術工芸品	陶 磁 器	46	143
	土 人 形	66	
	彫 刻	12	
	そ の 他	19	
武 具 類			66
民 具 類	衣 装	62	140
	看板・棟札類	21	
	貨 幣	13	
	そ の 他	44	
文 献	個 別 文 書	49	1,483
	嶋 津 文 書	6	
	宇津江文書	15	
	杉原家文書	1,201	
	上杉孝久氏寄贈文書	200	
	そ の 他	12	
写 真			8
歴代市長・議長肖像			32
自 然 科 学	動 物	93	95
	そ の 他	2	
		計	2,393

博物館実習

本館では博物館実習生を毎年受け入れてきたが、今年度は館内の改築工事等があり、受け入れは2名のみとなった。当時の実習生のノートの一部公開し実習状況を紹介したい。

実習生	大学名	期間
長沼孝之	千葉大学	6年1月11日～16日
佐藤文智	千葉大学	6年1月19日～25日

博物館実習計画 担当学芸員：角屋、遠藤

1日目	職員紹介 博物館概説 館内案内 古文書整理、取り扱い
2日目	武具の取り扱い
3日目	昆虫防腐剤補給 標本マット作成 (ミナフォーム切断)
4日目	衣装整理 ホドシン(防虫剤)交換
5日目	古文書整理
6日目	図書整理 実習のまとめ

長沼君の実習ノートより

1月14日実習内容：ポスター、衣装の整理

〔反省〕

午前中のポスター整理作業は、始めは何のためにこんなことをするのかわからないまま、機械的に作業を進めてしまった。この作業も火曜日のパンフレットの整理と同様、今後の博物館運営の基本的な作業ということで、こういう仕事をしていることに実際は当然のことなのかもしれないが、新鮮な感じもしたし、20余年の長さにも驚きを感じた。特にポスターのデザインから年ごとの変化が見られ、企画でもずっと続いているもの、毎年新しい企画で行われているものなどがわかった。これから新しい企画展示や恒例の展示を行うために、過去の展示から、その時はどういう視点で訴えようとしていたのか、今回はどう発展させるかを考

えていくために役立つ作業なのだろう。午後からは着物の整理をした。今までの実習の中で、今回の作業が一番緊張して、とにかく慎重に行なおうという感じでやった。物に触れる際は特に慎重にしなければならないのは当然だろうが、取り扱い方はあれでよかったのかと反省している。

(長沼)

〔講評〕

11日のパンフレット整理と同様にポスター整理作業にも博物館運営の基本資料づくりという意味があります。もっと簡単に言えば、本館自体のプロフィールがそれを見れば一目瞭然ということになります。長沼君には20数年分を3時間に縮めて見ていただいたことになります。

衣装の整理においては収納箱から出し、カビ、虫害の点検、畳紙に包み桐箆筒へ収納、薬品の入れ替えまでの作業を行なっていただきましたが、今回の資料は保存状態の比較的良好なものだったので作業もスムーズだったと思います。資料を劣化させる要素には生物的要因(カビ、虫害等)、物理的要因(光、温度、ほこり、熱)等があるのはすでに学習されていることと思いますがそれらは、展示中はもちろんのこと、いっくらは保存中にも資料に影響を及ぼしています。資料を保存し劣化から守り、またそれと相反する展示を行なっていかなければならないわけですから、その両者をどの程度まで歩みよらせるかは大変にむずかしい問題です。

今回の衣装の整理作業から、取扱いの他に上記のようなことも考えてみて下さい。ご苦労様でした。

(遠藤)

1月26日

〔総括〕

1週間の実習で図書や図録の整理、昆虫標本のマット作成のような、いわゆる単純作業や古文書の整理など様々な作業(とはいっても博物館にとっては、ほんの一部分の仕事なのかもしれないが)を体験させていただいた。しかし、この実習を通して特に強く感じたことは、それらの作業の大変さよりも少ない人数で、しかも貧弱な施設(ごめんなさい)というような、あまりいい環境条件とはいえないなかでもなんとかして

きちんとした保存をしていこうとか、それらの保存や社会教育の施設としてしっかりしたものにしていこう、というような思いを常に抱きながら仕事をしていることであった。

学芸員として、あるいは学芸員でなくても他のどんな職業に就いている人であっても、あたりまえのことなのだろうが仕事に対する姿勢のようなものを学んだ。

また、自分のやっていることに対してどんなにか自信を持っていて、地道にこつこつと積み重ねていっても結果が出ないこともあるのが仕事なのかなと、実習の目的とはあまり関係がないかもしれないが、実習を通して一番強く感じたことだった。

(長沼)

〔講評〕

現博物館は25年の歴史がありますが、ハード面、ソフト面それぞれに問題点があります。それが新しい博物館の建設に生かされるよう願っています。

一週間、地道な仕事でしたが、ご苦労様でした。

学芸員は感動できる心を持っていることが大事です。それが熱意ある良い仕事となります。どんな仕事にも通じることですが、あまり大変な場面（私たちにはあたり前なので困りますが）ばかり見せたようで、社会に希望が持てなくなったら申し訳なく思います。

私たちにも感動はあるし、報われると信じたいと思います。

新社会人の長沼君といっしょにがんばりましょう。

(角屋)

佐藤君の実習ノートより

1月22日実習内容：図書整理

〔反省〕

館内における図書について整理方法の説明を受けた。実習を行うまで、博物館内における図書室の必要性について意識が薄かったが、今日の説明を受けて、その重要性を認識した。法的にも制度が整っていないので維持していくのは大変な事であるが、研究や贈呈、交換等があるため、ただでさえ増加していく図書を整理する事は必要であり、そのために司書を置く事も考えなければならない。また、学芸員にも司書的知識が求められる。しかし、コピーサービスの点等で司書を置

く必要性もある。これらの点を考慮して博物館の図書について学んでいきたい。

館刊行物の整理として、特別展のパンフレット、借用書等の資料の整理を行った。このような資料はこれからも博物館の運営の際に必要とされ、今後とも保存整理の作業は必要であると思った。

(佐藤)

〔講評〕

一週間、ご苦労様でした。

博物館の広範囲な仕事には思いもよらぬことがあったのではありませんか。本館は学芸部門が独立していないのでさらに大変といえます。先人たちの文化遺産である資料を広く活用するとともによりよい環境で保存し、長く後世に伝えていくという、いわば相反する使命に頭を抱えながら取り組んでいくのが学芸員といえましょう。

一週間の体験が博物館に対するさらなる関心になれば幸いです。

(角屋)

〔実習によって得た経験を通しての感想〕

予想以上に大変な仕事である。

上杉博物館では3人の学芸員が、多くの資料の保存を行い、特別展の企画、内容を考え手配する等、数多くの学芸的な仕事をしている上に、事務的な仕事もこなしている。

資料を扱う際には細心の注意が必要とされ、展示の際には力仕事も要求される。実際、地方の博物館ではこの様な状態の所が多くあると思う。

雑事をこなしながら、学芸員本来の仕事を行うことは大変なことであるが、専門職としての仕事をして行かなければならない。

(佐藤)

平成 5 年度 入館利用状況

	展 覧 会 名 称	会 期	日数	一 般	学 生	小中生	団体一般	団体学生	団体小中生	合 計
1	上杉家文書の世界 ー謙信登場ー	4月17日～5月7日	19日	3,922人	579人	419人	191人	0人	0人	5,111人
2	生活の文化史 煙草盆 ー梅津宮雄 コレクションー	6月5日～7月11日	32日	3,856	74	159	830	0	69	4,988
3	第4回 昆虫展 ー水辺の昆虫たちー	7月24日～8月22日	26日	6,470	633	1,983	55	20	25	9,186
4	米沢藩の絵師たち	9月4日～9月19日	13日	1,941	211	127	162	1	90	2,532
5	第23回 日本刀展 ー桃山時代の名刀の拵ー	9月25日～10月24日	25日	3,684	167	184	477	0	76	4,588
6	上杉鷹山公と その周辺	11月2日～12月26日	45日	3,601	158	172	266	62	0	4,259
7	新収蔵品展	1月11日～3月31日	63日	3,010	457	219	75	0	0	3,761
8	館蔵品展	4月1日～4月7日 5月19日～5月29日 10月30日～10月31日	17日	2,062	102	137	458	0	172	2,931
	合 計		240日	28,546	2,381	3,400	2,514	83	432	37,356

	一 般	学 生	小中生	団体一般	団体学生	団体小中生	合計人数	会館日数
4月	1,378人	124人	112人	211人	0人	0人	1,825人	18日
5月	4,093	549	425	415	0	172	5,654	16
6月	2,784	55	110	657	0	29	3,635	22
7月	2,182	115	326	194	20	40	2,877	17
8月	5,360	537	1,706	34	0	25	7,662	19
9月	2,577	251	138	294	1	90	3,351	18
10月	3,561	135	192	368	0	76	4,332	22
11月	2,630	122	130	171	62	0	3,115	23
12月	971	36	42	95	0	0	1,144	22
1月	511	30	16	25	0	0	582	17
2月	1,043	146	44	0	0	0	1,233	23
3月	1,456	281	158	50	0	0	1,945	24
合 計	28,546	2,381	3,399	2,514	83	432	37,355	241

組織・名簿

米沢市立上杉博物館協議会委員（平成4年7月1日～平成6年6月30日）（平成5年4月現在）

米 野 幸 雄	米 沢 市 小 学 校 校 長 会 会 長	大 峽 孟	学 識 経 験 者
高 橋 芳 男	米 沢 市 中 学 校 校 長 会 会 長	菊 地 伸 之	〃
草 壁 喜一郎	米 沢 市 高 等 学 校 校 長 会 会 長	鈴 木 仁	〃
吉 野 正 八	米 沢 市 社 会 教 育 委 員	黒 田 信 介	〃
栗 林 金 郎	(財)米沢上杉文化振興財団副理事長	佐 藤 美保子	〃
石 栗 正 人	市文化財保護委員会委員長	鳥 海 隼 夫	〃
伊 藤 亮 一	学 識 経 験 者	山 村 精	〃
上 杉 虎 雄	〃		

（根拠法令等）

1. 博物館法第21条（博物館協議会）
2. 教育委員会が任命
3. 米沢市博物館の設置及び管理に関する条例第16条により定数15名、任期は2年

（参考） 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者。

（職 務） ー博物館法第20条第2項ー

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。

平成5年度協議会開催

開催日 3月26日

場 所 米沢市教育委員会 教育委員室

内 容 報告 平成5年度博物館事業について

協議 平成6年度博物館事業計画及び予算について

財団法人米沢上杉文化振興財団

本館の管理を委託していた(財)上杉博物館協会が解散し、かわって財団法人米沢上杉文化振興財団が平成2年3月22日設立され、米沢市立上杉博物館の管理運営を財団に委託することとなった。

平成元年、上杉家16代当主隆憲氏により、重要文化財「上杉家文書」・同じく「紙本金地著色洛中洛外図」・県指定文化財「紙本著色鹿図」・重要美術館「太刀銘長船長光附打刀拵」の4件が米沢市に寄贈された。当財団はこれを機として設立されたものである。地域文化の振興を図るため、歴史・文化に関する調査研究及び美術品の公開展示等の事業を実施し、地域社会のより豊かな文化生活に寄与することを目的としている。

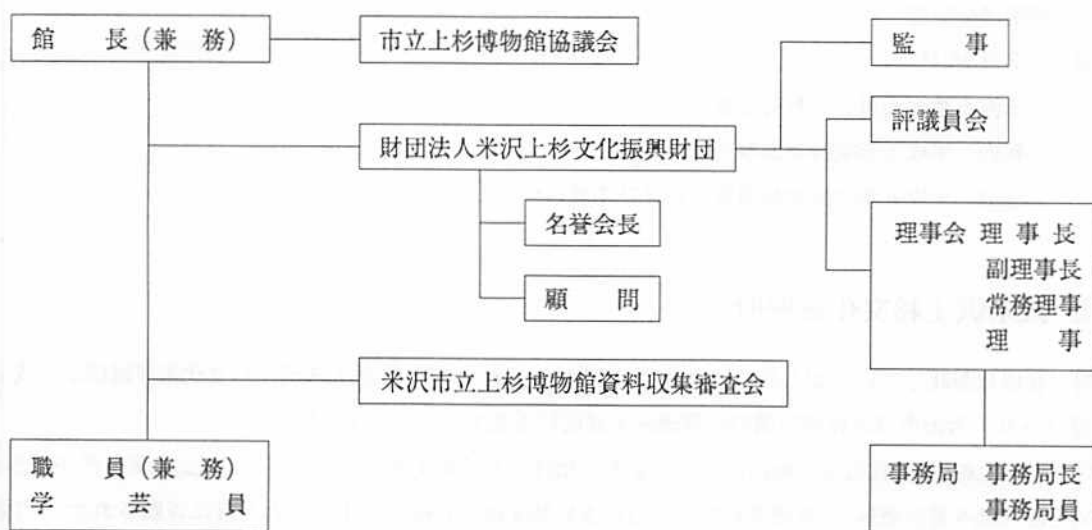
財団法人 米沢上杉文化振興財団役員（平成5年4月現在）

名誉会長	上 杉 隆 憲	理 事 長	青 木 厚 一
顧問	高 橋 幸 翁	副理事長	栗 林 金 郎
〃	内 藤 政 利	〃	石 塚 忠 夫
〃	種 村 一 郎	常務理事	小 口 亘

理 事	上 杉 邦 憲	九 里 茂 三	松 田 俊 春
	上 杉 敏 子	小 嶋 彌左衛門	長 岡 正
	上 杉 虎 雄	遠 藤 英 明	北 目 二 郎
	上 杉 隆 治	椿 初 枝	石 栗 正 人
	寛 統 子	黒 金 義 一	大 峽 孟
	山 中 絢 子	庄 司 淳	横 山 一 郎
	大乘寺 健	相 田 吉 助	佐々木 惇
評 議 員	小 泉 溥 瑛	小 林 勇	松 野 良 寅
	新 田 秀 次	上 泉 治	荒 井 信 雄
	山 岸 才 一	勝 見 吾 助	菊 地 伸 之 力
	清 水 澄	手 塚 春 夫	須 貝 三 男
	井 形 朝 良	塩 川 勝 彦	桜 井 裕 子
	小 野 栄	太 田 政 子	加 藤 恒 平
	赤 木 伊勢吉	佐 藤 美 保子	竹 田 弘 毅
	水無瀬 正 一	高 橋 素 子	石 川 金 造
	我 妻 岩 吉	高 森 務	鈴 木 紀 子
	荒 井 政 二 郎		
監 事	平 田 栗	村 岡 孝 助	安 部 紀 子

事 務 局

事務局長	沖 田 良 夫
事務局員	菊 地 米 子
	角 屋 由美子 (学芸員)
	遠 藤 美 穂 (学芸員)
	星 努 (学芸員)



米沢市立上杉博物館

館長(兼務)	木 村 琢 美	米沢市教育委員会文化課	課長
職員(兼務)	我 妻 淳 一	〃	課長補佐
〃	須 佐 勝 也	〃	文化財係長
〃	平 間 洋 子	〃	文化財主査
嘱託職員	佐 藤 道 子	〃	学芸員

平成5年度

米沢市立上杉博物館年報 Vol. 6

編集 米沢市立上杉博物館

(財)米沢上杉文化振興財団

〒992 山形県米沢市丸の内一丁目4-13

☎ 0238-23-7302

発行 米沢市教育委員会

〒992 山形県米沢金池三丁目1-55

☎ 0238-22-5111

平成7年3月31日 発行

印刷 (有) カ ト ウ 印刷

◎赤鐘馱（目賀多守澄）	個人蔵
⋮	⋮
◎雲海之図（目賀多雲林）	個人蔵
⋮	⋮
最下行より14行目以降	⋮
◎扇画面（中川雪堂）	個人蔵
◎ 〃 （小田切寒松軒）	個人蔵
◎ 〃 （目賀多信済）	個人蔵
⋮	⋮
◎ 〃 （濱崎木麟）	個人蔵
◎ 〃 （佐藤雪斎）	個人蔵
◎山水之図（小田切寒松軒）	個人蔵

「平成5年度 米沢市立上杉博物館年報 V o 1 . 6」に誤りがございました。不手際をお詫び申し上げますとともに下記のとおり訂正いたします。

誤 字

2 頁 「平成5年度博物館日誌」 左段下より21行目 「9. 2」の行
誤：（兩田氏より） 正：（兩田氏より）

5 頁 「（2） 生活文化史 煙草盆」 タイトル2行目
誤：－梅津宮尾コレクション－ 正：－梅津宮雄コレクション－

訂 正

4 頁 「展示資料目録」 下より18行目以降を下記のとおり訂正

		(誤)	(正)
◎絵図	米沢福島ニテ三拾万石之御絵図	米沢市立上杉博物館蔵	市立米沢図書館蔵
	越州春日山城跡之図	〃	〃
	⋮		⋮
◎甲	胄		
	紫系威二枚胴具足 附唐冠兜	米沢市立上杉博物館蔵	個人蔵
	⋮		⋮
	鎖鎧	〃	個人蔵
	黒漆塗六間筋兜	〃	個人蔵
	阿古陀型十六間筋兜	米沢市立上杉博物館蔵	(変更なし)
◎火 縄 銃			
	10 匁筒 (攝州住口口屋小兵衛作)	米沢市立上杉博物館蔵	(変更なし)
	20 匁筒、30 匁筒	〃	個人蔵
	⋮		⋮
◎朱漆塗弓、重藤弓 (しげとうのゆみ)		〃	個人蔵
◎空穂 (うつぼ)		〃	個人蔵
◎弓、空穂台		〃	個人蔵

削 除

10 頁 「展示資料目録」 右段 資料写真の上
「出展全資料 米沢市立上杉博物館蔵」を削除する

追 加

10 頁 「展示資料目録」 3 行目より 下記のとおりゴシック部分を追加

◎山水図 (目賀多雲川)	個人蔵
⋮	⋮
◎御殿鷹 (目賀多信濟)	個人蔵

